



「山の形と入り口」
大野山ないし四王寺山といわれる山槐は、尾根すじがU字形をなしていて、やや急斜面な外側は太宰府市と大野城市が接しているのに対し、北向きに開いた内側はゆるやか

粕屋郡宇美町

四王寺山槐の宇美町域を歩く

福岡市「その道」歴史・文化の歩み



で、宇美町に属している。だから山のあちらこちらを散策すれば、それはすなわち宇美町内を歩いたことになるわけだ。
登山をしたければ、大宰府政庁（都府楼跡から坂本を

その道 世 法

經由して行く道が、最も山径の雰囲気味わえるだろう。
マイカーで行く場合は、太宰府天満宮の近



特別名店

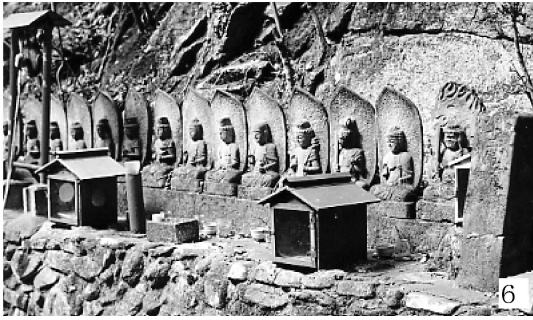
大野屋

創業大正15年
郷土料理
Japanese Restaurant

福岡市中央区天神1-1-1 TEL: 092-281-8223
営業時間 午前11時～午後11時

☆

四



①。頂上広場と呼んでいた（写真①）。

「焼米方原と土塁」
 かつて地元の小学生であった私どもは、遠足といえは大体に於いてここ四王寺山の焼米方原が目的地で、そこを



何度か人を案内したことが

そして周囲の斜面に接する山ぎわには、全長数^キにわたって土塁が連なっている。私は



運以下736名と、攻め手で死亡した島津方約3000名の霊を鎮め

「札所33カ所、滝もある」
 その土塁につかず離れずといった感じで、33カ所にわたって石仏がまつつてある。こ

火災で焼失してからはさびれてしまった。

「県民の森公園」
 最近の遠足は、ほとんどがここ「四王寺県民の森公園」を目的とするようになった。駐車場はもちろん、休憩ベンチはあるし、各種の遊具も揃っているから、子供づれのピクニックにも好適だろう。

園内の池の淵にあるコンクリートの造り物「写真⑦」は、昔の水時計を模したもの。かつて「漏刻台」と呼ばれていた

くから林道（と言ってもコンクリート舗装されている）を登って北側の宇美町へ抜けるか、またはその逆の道順をたどる方法がある。ほかに大野城市から入る道もあるが、少し判りづらいし、半端なコースになる。

凹地に整列して先生を見ると、背後には何やら墓石らしいものがある（写真②）。あれは何だろうと思っていた。中世に活躍した盲目の琵琶法師「玄清の墓」ということだが、実は玄清の墓はふもとの坂本集落にもある。

あるが、土塁一周はほとんど1日、一歩になる。靴は少なくとも軽登山用を履いておく必要あり。

これは四国や篠栗の88カ所霊場とは別種のものらしいが、その由来がツキリしない。何でも天正年間（16世紀）に岩屋城にあつて全滅した高橋紹運以下736名と、攻め手で死亡した島津方約3000名の霊を鎮め

るために始まったのではないかと、言われているけれど、定かではない。石仏の建立は寛政12（1800）年と伝えられている。

石仏のうち3番札所だけは摩崖仏になつていて、筆者の好きなものの1つ（写真③）。それに対し20番札所（写真④）は、その横に滝があつて（写真⑤）、豊川稲荷がまつつてある。そして十三地藏もひかえていらしゃる（写真⑥）。

以前ここには社殿があり、人々の信仰の拠点になつていったのだが、何年前だったか、火災で焼失してからはさびれてしまった。



記念品・販促用品・中国掛軸・広告マツチ

TEL 0999 741-3830
 FAX 0999 741-5221

（株） 糖屋



9

「山の歴史を少々」

政庁の東側にある丘（月山または刻山^{とく}）にしつらえてあったという、わが国最初の時計である。
 なお、園内に石畳があったが（写真⑧）、この石はかつて西鉄市内電車軌道に敷かれていたものかどうか。
 ところで、山中にはいたる所に休憩所が設けてある。青天井のベンチもあれば（写真⑨）、雨を避ける東屋（写真⑩）もある。むろんトイレも各所に。



10

つかつている（写真⑩）。焼

の背後にある四王寺山槐はいざという時に役人や地域住民ともどもたてこもって長期戦に備えるための、生活拠点となる予定であった。だから数カ年分の食料を貯蔵したように、倉庫の跡がいくつも見



☆☆

7世紀 大陸や半島からの侵入をおそれて大宰府の防備を堅めるべく、水城の堤防や山城をつくらした時 特に政庁



11

史遺産である。

米というのには、貯蔵していた米が永い年月で炭化してしまつたものである。
 土塁は人工的に土盛りしたもので、これも防備力の強化策の1つ。しかし谷間には土塁は作れないので、そこには石垣を築いた。中でも巨大なのは、北面にある「百間石垣」といわれるもの（写真⑫、⑬）。これは幸いに舗装道路 林道沿いにあるので、さして苦勞せずに見ることができ、ぜひ一見をおすすめしたい歴史遺産である。



12

庶民が作る
 ふだん着の 役職専門誌(奇数月発行)

『ものもうす!』

編集長: 親 世 弘

(02年 4月) / 台子雪屋で集料印生
 *おしりおた念Dm x 04 55 004 / 07 / 05



13

六